

# 魚津2040会議 報告書（第6回）（最終回）

令和元年11月22日

魚津市公共施設再編推進室

## 【会議概要】

- 1 開催日時 令和元年11月21日（木）19:00～20:30
- 2 開催場所 魚津市役所4階 第1・第2委員会室
- 3 出席者 メンバー12名、村椿市長、四十万副市長、川岸企画総務部長
- 4 概要 ①メンバーから市長への意見書提出と、メンバーによる概要説明。  
②メンバーと市幹部の意見交換。

## 【意見交換における主な意見】

### ①メンバーの意見

#### （1）公共施設一般について

- ・建物だけでなく、それを運営する人や機能も充実できればよい。
- ・情報発信を攻めの姿勢で伝え、明るい魚津の未来に向けてつながっていければよい。
- ・どうしても自分の地域を守りたいという思いになりがちだが、それで厳しくなるのであれば、全体の財政圧迫を広い目で、全体で考えていくことが必要。総合体育館や吉田グラウンドはよく使っていたが、今後は、ありそドームなどの集約先となる施設を活用させていただきたいと思う。利用料は値上げになっても仕方ないと思う。
- ・施設の運営に携わる者として、今までは公共施設を中心に利用させていただいていたが、今後は、我々が各地域にある施設に出向き、地域と連携しながら、その地区ならではの特徴のある事業を進めていきたい。

#### （2）跡地について

- ・存続・リノベーションは10年、20年持続できるか疑問。分譲の場合も、ただの宅地にするのではなく、例えばログハウスのようなものにして、建売りにしたらすぐ買手が付くと思う。跡地を小さなタウンとして、子ども子育ての場にすれば、すごく良いこと。それぞれの跡地に合ったコミュニティを作れるのではないか。
- ・学校跡地の活用に向けた動きが止まってしまっている状態。このあと校舎がどうなっていくかということについて、住民も心配している。スピーディな情報発信を求めたい。
- ・体育館・校庭は残して、校舎だけを利活用、という考え方ではなく、トータルのコンセプトで考え、制約を外していくべきではないか。

#### （3）庁舎について

- ・中心施設である市庁舎を新しくし、誰もが集まる場になってほしい。カフェや市民食堂を整備するなどして心地よい空間になれば良い。

#### (4) 公民館について

- ・学校統合によって、将来的に旧校下がなくなるとしても、地域にコミュニティは残しておいた方がよい。必ずしも各地区公民館という形でなくても、コミュニティの維持を。

#### (5) 学びの森について

- ・存廃の意見は分かれるが、音楽面で特色のある施設なので、残ってくればいろいろ活用可能で、面白いことができそう。

#### (6) 情報発信について

- ・20～40歳に対して情報発信をどうすればよいか、正直答えが出ない。市の将来に関心をもってくれる人を増やすのが課題。
- ・子どもの授業参観など、人の集まる場を利用すると良いのではないか。

#### (7) その他

- ・県外出身者の目線だと魚津は見るところがたくさんあるのに、市民が知らない。観光資源などをもっと発信してほしい。
- ・防災意識が県全体として低いと感じる。中学生が防災訓練に参加しているところもある。そういうことも進めていけたら良いと思う。

### ②メンバーから市幹部への質問と回答

Q：学びの森はどこかに売るとか。

A：まだ決まっていない。コストの面もあり、難しいところがある。様々な利活用が考えられる施設ではあるが、行政主体ではできないこともある。

Q：水族館を民営化して負担の軽減ができないか。または県営にならないか。水族館と埋没林、すべてを市で運営していくのは負担が大きいのでは。

A：娯楽施設という考え方もできるが、研究・教育の場所でもあり、0対100で割り切れないところがある。民間でも運営できる施設規模を考えていかなければならない。機能を残すにしても、どういった部分で残し、稼げる部分をどう組み合わせるかの検討が必要。広域的なあり方に向けた議論はしている。